

障害者支援施設 障害者福祉センター友愛寮

1 基本方針

思いやりと友愛の心を持ち、豊かで心のこもった利用者本位の質の高い福祉サービスを提供し、安全かつ安心に、楽しく有意義に生活できるよう支援する。

地域との繋がりや共生を重視し、介護・支援を必要とされる地域住民のために役立つ施設を目指す。

また、地域住民のニーズに応えられるよう、職員一人ひとりが専門職としての資質向上に努め、施設入所・通所・短期入所など各サービスの充実を図る。

2 利用者の状況（令和2年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和元年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別				死亡					
					地域移行		家庭復帰	施設移管		契約解除(入院等)				
				GH	アパート等									
生活介護	50	59	6	7	0	0	0	0	2	5	13,153	97.5%	58	
施設入所支援	50	50	5	6	0	0	0	0	1	5	16,752	91.6%	49	
30年度	生活介護	50	60	5	6	0	0	0	0	4	2	13,246	98.5%	59
	施設入所支援	50	50	5	5	0	0	0	0	3	2	16,869	92.4%	50

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	4	7	14	27
女性	0	0	0	2	4	10	15	31
計	0	0	0	4	8	17	29	58

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	3	7	11	23
女性	0	0	0	2	4	8	12	26
計	0	0	0	4	7	15	23	49

3 事業の実施状況

（1）利用者の満足度の高いサービス提供に努める。

ア 各部署が協働し、日々の利用者・家族との関わりの中から必要なニーズ把握に努め、半年に一度ケアカンファレンスにて利用者状況・課題等について話し合い、情報共有並びに統一理解を深めている。月評にて個別支援計画をもとにモニタリング等状況をまとめ評価することで個別支援計画の充実を図ることができた。また、個別支援計画見直し時に個々のリスクカード見直しも継続してしており、リスク管理にもつながっている。

イ 個人研修計画をもとに、寮長との面談を実施し研修の充実を図った。外部研修、内部研修に参加し、知識・技術の向上を目指した。OJT中心の研修では、各係、委員会を中心に実施し専門職としての知識を深め、チーム力向上につながっている。

7組のトレーナー制に取り組み、年間を通し計画的に実施することができた。今後も新任職員のスキルアップとリスク軽減に努め、各部署協力のもと人材育成に取り組んでいく。

ウ 保護者・利用者満足度アンケートを7月に実施し、集計・検証を行い、要望、意見に対して、改善に取り組み、その対応結果を寮内に掲示するとともに、保護者に送付した。また、利用者に満足していただけるサービスの提供に取り組むよう職員に周知した。

職員のサービス自己評価については、10月に実施し、集計・検証を行い、会議にて意見交換を行った。自己の振り返りと同時にサービスの振り返りを行い業務改善・向上につなげることができた。

利用者の満足度の高いサービスの提供を行うために入浴、排泄、食事等のそれぞれの担当が研修会を計画・実施し業務の振り返りやサービスの見直しと改善に努めた。

エ みんなの会、意見箱の活用により苦情や意見を汲み取り、苦情解決委員会で検討し第三者委員の助言もいただき、施設環境や支援等の改善に努め、利用者、ご家族が安心して利用していただけるように施設全体で取り組むことができた。

また、虐待防止関係の研修に積極的に参加し、施設内での伝達研修を行い虐待や人権に関する意識改善につなげた。

保護者会を通じて成年後見人制度の紹介、情報提供を行い意識を高めた。

オ 重度化、高齢化、疾病などにより咀嚼・嚥下機能が低下した利用者に対しては、刻み食やなめらか食など工夫をこらし個々に応じた食事形態で提供している。

また、嗜好調査を実施したり、利用者参加の「ごはんの会」を2ヶ月に1回開催し、日々の食事場面でのご意見や要望を聞き、献立に繁栄させより良い食事サービスの提供に努めた。

食堂で行うイベント的調理として、個々の希望に応じた鍋の日や目の前で焼くステーキの日を実施したり、毎月の行事食では、ご当地献立、各国味わいの旅、誕生日食も利用者の楽しみとなっている。

今後も各部署連携し安心・安全で楽しみのある食事の提供に努めていく。

カ 個々のアセスメントを随時実施し、利用者の心身機能に合わせた個別、生活リハビリの提供に努めた。今後も引き続き機能維持に向けた提供が必要である。

また、他部署との情報共有を行い、利用者の機能発揮ができ、介助量軽減となるようスカイリフト、センサーマット、いざえもんシート、マルチグローブ等の福祉用具の選定や勉強会を実施し活用している。

今後、更なる情報共有に努め利用者の生活機能の向上を目指し努力していく。

(2) 医療的ケアの充実を図る。

ア 日々のケアの中で他部署との連携を図り、個々の利用者の情報伝達を詳細に行い、異変の早期発見、早期対応に繋げることができた。

夜間の対応については、吸引の時間や観察内容を指示することで肺炎予防や急変前に早めに対応すること等具体的に指示し確実な対応が行えることにより予防につなげた。

急変時の対応については、「事前意向確認書」の活用とともにマニュアルに沿った研修会を実施し迅速な対応ができるような体制の整備ができた。今後も各部署との連携をさらに密にし高齢化、重度化への対応に努めていく。

イ 有資格者による安心・安全な医療的ケアを実施するため、年2回「認定特定行為従事者フォローアップ研修」を計画し手技の確認・評価を実施することで医療ケアに必要な知識や技術の維持に努めることができた。また、朝、昼、夕の経管栄養を看護師と介護員で行ったことで協力体制が整い医療的ケアの充実につながった。

今後有資格者が自信を持ち医療的ケアに従事できるよう支援していくとともに共働体制の確保と整備に努めていく。

今年度、実地研修を2名終了し、有資格者は、22名となった。

(3) 地域生活の継続と推進を図る。

ア 年間を通し、月曜日から土曜日、祝日を含め、ご家族の希望に添えるよう調整を行いながらできる限り通所・短期入所の受入を行った。今後も地域の利用者、ご家族に安心して利用していただけるようサービス向上に努めると同時に、利用者の重度化に伴い職員体制も整え受入をしていく。

(4) 安定的な施設運営の維持及び施設の環境整備に努める。

ア 長期入院による退所や疾病等により死亡された方などで稼働率は低下した。利用者の高齢

化・重度化により異常の早期発見、早期対応に努めるとともに医療関係との連携が必要になってきている。

稼働率（目標）

生活介護 97.5% (103%)、施設入所支援 91.6% (99%)、

短期入所 38.9% (50%)

イ 介護リフト及び着衣チェア等の介護機器の導入、合同厨房の床等の塗装及びトイレの改修を行い、安心・安全で快適な生活環境の提供に努めた。

ウ 老朽化に伴う改築について厚和寮との検討会を行った。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
YMCA米子医療福祉専門学校	8-9月	4人	24人
鳥取大学(介護等体験)	8-9月	8人	40人
鳥取社会福祉専門学校	11-12月	4人	20人
鳥取県(新規採用職員)	12月	2人	6人
計		18人	90人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取市赤十字奉仕団、鳥取大学特別支援学校専攻科、友愛寮OB、アンサンブルリリー、鳥取大学奇術部、紙原歌謡教室、ガールスカウト、他個人ボランティア

[延べ116人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設4名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様（主な受入先：鳥取市）

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	13	569	15	651
日中一時支援事業	1	3	1	46